

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 児山卓史

所属: 神奈川県立相模原中央支援学校

記録日: H28年2月28日

キーワード: 不登校 登校支援 環境調整

## 【対象児の情報】

・学年 中学部1年生の女子(Aさん)

・障害名 自閉症

・障害と困難の内容

○小4より不登校(2年6ヶ月間)

外出できないため、学習の機会や刺激の少ない生活を送っている。

○活動の見通しが持てず、それを伝えるための手段がない。

外出先でその場に座り込み、動けなくなったり、自宅や外出先でトイレから出てこられなくなったりしてしまう。



## 【活動目的】

・当初のねらい

○学校へ行きたいという気持ちを高める

不登校の状況から登校を促すために、ビデオ通信での朝の会の授業参加を重ねることで、本人の「学校に行きたい」という気持ちを高めていく。

○見通しを持って活動できるようになる

登校時はiPhoneでスケジュールを確認することで見通しを持って活動できるようにする。

・実施期間 H28.5月26日 ~ H29.3月

・実施者と対象児の関係 児山卓史(中学部副学部長)

## 【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

小2で本校に転入し、小3の頃から活動が滞ることが増え、スクールバスに同乗の他児童とのトラブルがきっかけで登校を渋るようになった。保護者がなんとか家から連れ出しても車から降りられず、降りても玄関先で動けなくなることが増えた。学校では担任が引っ張ったり、時には台車を使ったりして移動を促すことしか手立てがなかった。家では壁を叩いたり室内で排尿したりという行動(現時点では収まっている)に悩まされる中で、保護者が登校できる状況ではないと判断し、小4の2学期、宿泊学習を最後に不登校となる。現在は小学部から一緒に3名のクラスメイトと2名の新担任からなる中学部1年に在籍しているが、登校は1度もなく、担任が2週間に1度訪問指導を行っている。

太田のStage評価 III-1前期

(コミュニケーション)

発語はないが、いくつかのサインは習得しており、トイレに行きたいときは自分の肩をたたいて支援者に伝える事ができる。その他の要求は身振りで伝えようとするが何を要求しているのかが伝わりにくい。

(物事への取り組み姿勢)

新しいものに対する興味関心が強いが飽きっぽさもあり、繰り返しの活動ではその場から離れる、活動しない等の逸脱行動が見られる。

(こだわり)その日の体調によりいろいろなことにこだわり、座り込んで動けなくなってしまう。楽しみなことを伝えたり、気持ちを安定させるもの(タンバリンやスプレー缶など)を持たせたりすることで気分が変わることもある。特にトイレでの滞りが多く、家では不定期に5~10回程度トイレに行き、座る、拭くなどその都度指示を必要とする。そのうち1~2回程度滞りがあり、長いときはトイレから1時間前後出る事ができない。

## ・Aさんの困り感

- 外出できないため、学習の機会や刺激の少ない生活を送っている
- 次の活動の見通しが持てず、それを伝えるための手段がない  
その場に座り込み、動けなくなる【外出先】  
トイレから出てこられない【自宅、外出先】



## ・活動の具体的内容

### ◇ビデオ通信で朝の会への参加

方法: 研究者の iPhone から A さんの iPad に Facetime でビデオ通信を行う

時間: 月～金 9:20～9:30

### 取り組みの経緯

当初は本人の状況から登校は難しいと考え、訪問指導での関わりからスタートした。入学式(家庭訪問で行った)に提案した「ビデオ通信での授業参加」について保護者が興味を示したことがきっかけとなり、取り組みを進めることとなった。

### 保護者との連携

ビデオ通信を行うタイミングやその日の行動の振り返りを「By Talk」や「Line」を通して行った。2週間に1度の訪問指導ではビデオ通信の振り返りと、Aさんの行動の変化を聞き取りつつ、翌日以降の取り組みの修正について保護者と検討を行った。

### 記録の方法

ビデオ通信の様子は毎回録画し、表情や参加状況等を観点として評価を行った。7月より家庭での様子を記録用紙に記入してもらい、学校での取り組み状況とのすりあわせを行った。

### 取り組みのイメージ



### 実際の取り組みの様子

#### 学校



#### 自宅



## ビデオ通信を行うにあたっての留意事項

### 教員

- ・他の生徒と同じ目線で参加できるように、通信を行う iPhone は教員が手持ちで操作する。
- ・TV を意識せずに普段通りの進行を心がける。

### 本人、保護者へのアプローチ

- ・本人が積極的に参加できる活動を入れる(呼名、日直の号令、朝の歌等)。
- ・直前のタイミングの調整、直後の状況についての保護者との確認手段に「By Talk」「Line」等の SNS を使用する。
- ・参加できないときは無理に誘わず、参加できなくてもよしとする。
- ・2週間に1度の訪問時に情報のすり合わせを行う。

### 他生徒への意識づけ

- ・モニターとつなぐことでクラスメイトと一緒に参加していることを意識させる。

## ・対象児の事後の変化

### ◇前期の取り組み 5/27～7/20 ビデオ通信38回

取り組み当初はビデオ通信にあまり乗り気ではなく、フェードアウトしてしまったり、参加できても表情が悪かったりすることがたびたびあったが、活動に見通しが持ててくると参加状況もよくなり、さらに母親の働きかけでAさんを定位置へ上手に誘うことによって安定した参加へと結びついた。また好きな音楽活動があることによって、朝の会がAさんの楽しみな日課へと変わっていった。結果としてこの前期の取り組みによってAさんがビデオ通信を毎朝の日課とすることができた。

### ◇夏休みの夏季活動への参加 8/1(月)、25(木)

前期の取り組みによってAさんのビデオ通信が定着し、保護者とも連携が取れ、登校を促す時期だと感じた。そこで、担任と相談して夏休みのクラス夏季活動への参加を促すこととした。保護者へは「小集団での活動」「Aさんの好きな音楽やレクなど、楽しめる活動」「短い時間設定」「調子が悪くなったらいつでも下校可」という提案をしたところ、不安ではあるが参加してみるという返事をいただいた。

8/1(月)13:00～15:00 2年8ヶ月ぶりにクラス夏季活動で登校した。ビデオ通信ではない朝の会をクラスメイトと行うことができた。その後もスタンプラリーや、みんなでお菓子を食べるなど久しぶりの学校での活動を楽しむ様子が見られた。



8/1の久しぶりの登校の参加状況がとてもいい感触だったので、再度8/25の学部の夏季活動への参加を促したところ、「参加します！」という前より強い口調での返答が保護者から返ってきた。



8/25(木)13:30～16:00 2回目の登校の学部夏季活動。大集団での活動は苦手と聞いていたが、特に問題はなく、音楽会やトランポリン、ダンスを楽しむことができた。

◇2学期～登校時の取り組み

2学期に入ってからビデオ通信の参加状況がとてよくなり、明らかにAさんの気持ちが学校へと向いているようだった。文化祭行事や宿泊など、行事を中心とした取り組みへの参加を促し、その結果、交流デイ(文化祭的行事)、2泊3日の宿泊学習、学習発表会に参加することができた。



登校時には問題となっていた活動の滞りが見られる時があった。事前に「DropTalk HD」で作成したスケジュールを確認してから登校し、登校時に再び「DropTalk HD」でスケジュールを確認することで見通しをもって行動することができた。それでも活動中に終わりの見通しが持てず滞ってしまう時には「トーキングエイド for iPad」を提示することで行動を促すことができた。



様々な場面で物にこだわり活動が滞る A さん



DropTalk でスケジュールを確認することで見通しを持たせた。

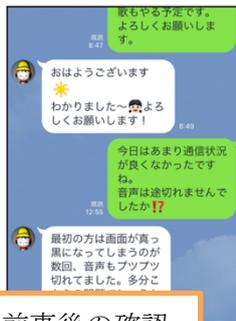


活動が滞った時でもタイマーで終わりが理解できた。

保護者へは学校での A さん様子を「By Talk」や「Line」で詳細に伝えることによって安心感を持って A さんを登校させてもらうことができた。



ビデオ通信事前事後の確認



学校での活動の様子を伝える



## ◇Aさんの現在

10月の宿泊学習にむけての取り組みでは事前学習のために保護者に登校を依頼する回数が増え、それに合わせて保護者のご協力もあり、最高で週3日の登校ができた。その間家庭でのAさんの様子に問題行動等の変化がなかったため、10月までは単発で設定していた登校日を、11月よりAさんが好きな音楽の授業のある木曜日に設定し、2週間に1度の訪問日に見直ししながら登校日を徐々に増やす取り組みを行った。登校しない日はビデオ通信を続けた。その結果、登校日の様子とその前後の家庭での様子に変化は見られなかったため、12月週2日(月、木)→1月週3日(月、水、木)と登校日を増やすことができた。

### Aさんの登校日の日課表

	1校時	2校時	3校時			4校時	5校時	下校※2
月曜日	体力作り	体育	国語・数学	給食	昼休み	ぎんがタイム※1	帰りの会	14:30(15:15)
水曜日	体力作り	生活単元		給食	帰りの会			13:00(13:30)
木曜日	体力作り	国語・数学	音楽	給食	昼休み	体育	帰りの会	14:30(15:15)

※1:総合的な学習の時間

※2:カッコ内は本来の下校時間。保護者の車の運転に対する不安を考慮し、スクールバス等で混雑する前に下校できるように下校時間を早めている。

一方、学校生活に慣れてきたAさんは徐々に活動が滞るなどの行動を見せはじめた。その行動の根本には本人の表出手段の少なさがあると考えられ、1月より絵カードを代替としたPECSのトレーニングに取り組んでいる。

Aさんの生活は取り組み当初の5月とはすっかり変わり、学校でたくさんの好きな活動が増えた。保護者は当初、Aさんのいない生活に戸惑っていたが、今では自分の時間の使い方にも向き合えるようになってきた。



### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

- ①ビデオ通信で毎日顔を合わせる事が関係作りにつながり、Aさんの気持ちを学校に向かわせることになった。
- ②Aさんの学校での様子をSNSで伝えることが保護者への安心感につながった。
- ③絵カードによるスケジュールの確認はAさんが見通しを持って活動する手段として有効であった。
- ④学校での活動によってAさんの生活リズムが崩れることはなかった。

#### ・エビデンス(具体的数値など)

- ①ビデオ通信を始めた当初と、登校するようになってからの参加状況を比較すると、夏休みの登校を境に参加できない状況がなくなった(図:1)。学校とつながっているんだ、という気づきがAさんに生まれ、夏休み後はこちらからの言葉かけに応じて顔をこちらに向けたり、手を上げて応答したりする場面も増えた。明らかにAさんの学校へ向かう気持ちが高まっ

ていることを感じた。

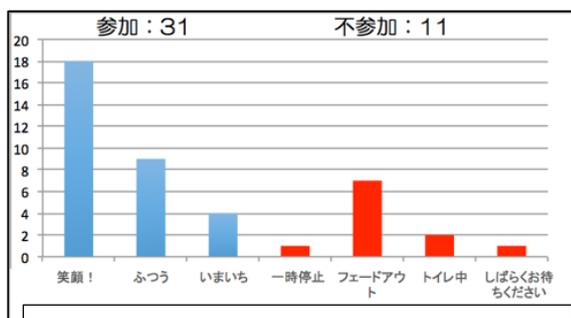


図 1 : 5/27～7/20 ビデオ通信参加状況

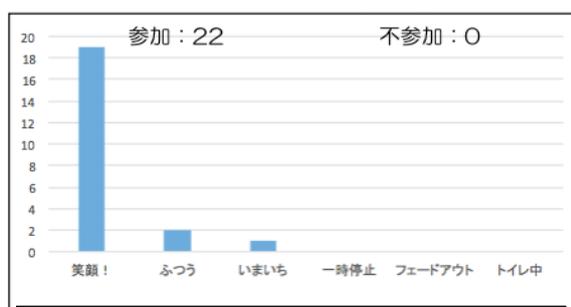


図 2 : 9/1～10/5 ビデオ通信参加状況



②Aさんが登校した時は、学校での様子を必ず SNS で写真や動画に説明文を添えてその日のうちの送信した。また、Aさんの滞っている様子を写真で送りながらどういう状況なのかを保護者と一緒に分析することで保護者と連携を取りながら取り組むことができた。この取り組みによって保護者が学校での A さんの様子を把握でき、安心感を持って学校へ行かせることができた。

③登校時はiPhone にインストールしたDropTalk でスケジュールをAさん本人が自分で確認することでスムーズに活動することが度々あった(4回/10回程度)。時には目的地の写真やイラストをiPhoneを持ちながらその場所へ移動することもあり、Aさんが見通しを持つための手段の一つとして有効であった。

④保護者の記録表によると、週3日登校を始めたH29.1月11日～31日の睡眠リズムは22:00～7:00と規則正しく、家庭ではトイレで滞ることが一度もなかった。学校生活が家庭での生活に悪い意味で影響することは全くなかったといえる。